
中国資本市場調査の概要について

日証協 平 22.3.24 ~ 26

近年著しい発展を遂げ、そのプレゼンスが急速に増大している中国資本市場の重要性に鑑み、最新の市場動向を把握するとともに、同国における市場規制の整備状況、自主規制のあり方、今後の日中両国の連携のあり方等についてヒアリング・意見交換することを目的に、平成 22 年 3 月 24 日から 26 日まで、本協会調査団が北京及び上海の関係各機関等を訪問した。今回の調査団の訪問先及びメンバーは後掲のとおりである。

調査団の所感として、今回の訪問を通じて、成長を続ける中国市場の重要性を改めて実感し、今後も同国関係各機関との親交を深め、継続的に情報交換を図っていくことが重要であるとの認識を持った。

各機関を訪問し、ヒアリングした内容は概要以下のとおりである。

- ・ 当局は、信用取引（3 月 31 日から）、先物指数取引（4 月 16 日から）の解禁に漕ぎ着けたが、これら新分野の慎重な運営を企図しているため、試行を徐々に積み上げることに専念する模様である。
- ・ このため、例えば国際板（外国企業の国内上場ボード）に関し、今般の全人代でも質問が出たほど注目される案件だが、当局や取引所では、上記で手一杯であるほか、香港の横槍（機能を上海に横取りされるという不安）などもあり、研究段階、結論はまだ出ていないとのトーンダウンされた反応であった。現地証券会社では、少なくとも本年中は捗々しい前進はなかろうとの見解が多く聞かれた。
- ・ 国内企業の上場基準の設定や株式発行の審査は当局によって行われている。当局からは、上場したい企業は潜在的に多いので、上場基準を緩和することは全く考えておらず、むしろ引き上げの方向で考えているとのスタンスであった。なお、現地証券会社では、創業板（ベンチャー企業の上場ボード）の活況・好調との対比で、日本株については魅力が乏しい面があるとの意見も出された。
- ・ 中小証券会社の経営基盤、コンプライアンス強化の問題については、当局からは、過去 3 年間、統合・合併、情報開示のルール導入、違法行為に罰則適用などを励行したため、現在 160 社存在するが当面一区切りついたところとの見解が示された。同時に、外資との合併は、慎重にテスト段階としつつも、ノウハウの向上・人材育成などに配慮して、着々と前向きに進めて行きたいとの見解も明らかにされた。
- ・ 中国証券業協会（SAC、約 90 名のスタッフ）は、JSDA と同様に自主規制機能及び業界団体機能を併せ持つ団体であり、中国証券監督管理委員会（CSRC）から形式的にも独立した社団法人として、メンバーの証券会社と CSRC とのパイプ役を果たしているとの説明が SAC 側からあった。CSRC からは、SAC に届出制等の義務を課

した上で一部の機能を移転（自主規制ルールの策定など）したが、将来的にはより権限を持たせ、役割も増加させたいとの本音が聞かれた。その際、ＪＳＤＡのノウハウをお借りしたいとの要請もあった。

- ・ なお、上海証券同業公会は、ＳＡＣの特別会員であるが、ＳＡＣの下部組織ではなく、上海に存在する証券会社の意見集約の機関として機能している。自主規制ルールを作り、違反した場合は、罰則はないが行政部署に処罰を働きかけることは可能との公会側の説明であった。また、同様の団体が北京などの主要都市にも存在することであった。ＪＳＤＡとの交流を深め、ノウハウを吸収していきたいとの希望が表明された。

（訪問先）

１）中国証券業協会（ＳＡＣ）

訪 問 日 時：３月 24 日午前

先方出席者：陳自強（副会長兼秘書長）

(Mr. Chen Ziqiang, Vice Chairman & Secretary-general)

楊曉武（副会長）

(Mr. Yang Xiaowu, Vice Chairman)

王燕紅（主任）

(Ms. Wang Yanhong, Director, Membership Department for Securities Companies)

潘志堅（主任）

(Dr. Pan Zhijian, Director, Development and Strategy Committee, Director, Membership Department for Securities Research and Consulting Companies)

ヒアリング項目：自主規制機関としての独立性、CSRC との関係、自主規制規則制定の
手続き、自主規制機関としての今後のあり方等

２）中国証券監督管理委員会（CSRC）

訪 問 日 時：３月 24 日午後

先方出席者：楊志華（副主任）

(Mr. Yang Zhihua, Deputy Director-general, Department of Intermediary Supervision)

孟薇（課長）

(Ms. Meng Wei, Division Director, Department of Intermediary Supervision)

ヒアリング項目：CSRC の概要及び役割、CSRC として取り組むべき主な課題、証券会社及び格付け機関の管理監督、SAC との関係及び自主規制機関の今後の役割等

3) 上海証券取引所

訪 問 日 時：3 月 26 日午前

先方出席者：除明（副総経理）

(Dr. Xu Ming, Executive Vice President)

司徒大年（高級経理）

(Dr. Situ Danian, Senior Research Fellow, Research Center)

ヒアリング項目：監督当局からの証券取引所の独立性、新たな取引及び商品（信用取引、先物取引等）、国際板（海外企業の上場区分）、証券取引所の課題等

4) 上海証券同業公会

訪 問 日 時：3 月 26 日午前

先方出席者：唐華銘（副会長兼秘書長）

(Mr. Tang Hua Ming, Vice President and Secretary General)

何偉（監事長 国泰君安証券副総裁）

(Mr. He Wei, Executive Vice President, Guotai Junan Securities)

張長虹（副会長）

(Mr. Changhong Zhang)

徐立偉（副秘書長）

(Ms. Xu Li Wei, Deputy Secretary-General)

宮里（海通証券 副総経理）

(Ms. Shirley Xu, Deputy General Manager, Haitong Securities)

魏敦（国泰君安証券）

(Mr. Wei Dun, Head of Overseas Business Department, Guotai Junan Securities)

金花（国泰君安証券）

(Ms. Hua Jin, QFII Sales, Guotai Junan Securities)

ヒアリング項目：上海証券同業公会の組織概要及び役割、証券会社の状況、証券会社の内部統制、金融専門家の人材育成等

（上記訪問のほか、日系証券会社の北京及び上海の駐在員事務所の代表者等と懇談会を実施した。各社からの出席者は以下のとおり。）

北京事務所との懇談会

日 時：3月24日

出席者：野村證券 北京駐在員事務所 所長代理 劉敏浩

(Mr. Minhao Liu, Executive Director)

大和証券資本市場 北京駐在員事務所 首席代表 澁谷慎志

(Mr. Shinji Shibuya, Chief Representative)

みずほ証券 北京駐在員事務所 首席代表 宋曉晨

(Mr. Xiaochen Song, Chief Representative)

三菱UFJ証券 北京事務所 中国総支配人 堀俊雄

(Mr. Toshio Hori, Regional Head of China)

同 首席代表 孫明明

(Mr. Sun Ming Ming, Chief Representative)

上海事務所との懇談会

日 時：3月25日

出席者：野村證券 上海駐在員事務所 首席代表 松田良次

(Mr. Ryoji Matsuda, Chief Representative, Managing Director)

海際大和証券有限責任公司 副董事長、總經理 冼楚平

(Mr. Xian Chuping, Deputy Chairman, President)

みずほ証券 上海駐在員事務所 首席代表 三坂希一

(Mr. Kiichi Misaka, Chief Representative)

菱証投資諮詢(上海)有限公司 董事 陳時樂

(Mr. Tony S. Chan, Director)

岡三証券 上海駐在員事務所 首席代表助理 馬榮婕

(Ms. Rongjie Ma, Assistant Chief Representative)

内藤証券 上海事務所 所長 弓長昌子

(Ms. Masako Yuminaga, Chief Representative)

東洋証券 上海駐在事務所 代表 黃永錫

(Mr. Huang Yong Xi, Representative)

(調査団のメンバー：4名)

本協会副会長 増井 喜一郎

明治大学法学部教授 童 適平

本協会特別参与 佐々木 俊彦

本協会国際部調査役 中瀬 裕也

以 上